

## ■ 会社概要(2009年3月末現在)

会社名	輸送機工業株式会社	富士機械株式会社	桐生工業株式会社
所在地	愛知県半田市上浜町102	群馬県前橋市岩神町2-24-3	群馬県桐生市相生町2-704
従業員数	99人	367人	82人
主な事業内容	航空機部品の製造、販売	自動車部品・産業機械・農業用 トランスミッションの製造、販売	スバル特装車の製造・スバル用品の 物流管理

## 地域社会とのかかわり

## 地域社会とのコミュニケーション

各社とも、さまざまな社内・外コミュニケーション、会社周辺の美化、清掃活動を実施しています。ここでは、

2008年度に実施した活動の一部をご紹介します。

(株)イチタン、桐生工業(株)、(株)スバルロジスティクスの3社は、スバル地域交流会\*1活動にも参加しています。



桐生工業(株)の環境活動:工場周辺および宇重通字路の清掃(線路際の草刈)



輸送機工業(株)では、「緑の募金」活動で集まった募金を愛知県緑化推進委員会へ寄贈しました。  
右:愛知県緑化推進委員会 柴田事務局長  
左:高橋業務部長



輸送機工業株式会社の職制がボランティアで参加した「EMSクリーン活動」



富士機械(株)では、前橋の花火大会に合わせ、従業員・町内にお住まいの方々・お取引先をご招待し納涼祭を開催しました。総勢600名が参加する大規模なものとなりました



(株)イチタンでは、従業員とその家族、そして地域にお住まいの方々をご招待して毎年8月に夏祭りを開催しています

## 環境教育、啓発、緊急時対応訓練実施状況など

各社とも、環境マネジメントシステムや法律に基づき、さまざまな環境教育開催や緊急事態に備えた訓練を実施しています。



桐生工業(株)の防災緊急対応訓練

企業名	実施日	内容	参加人数
輸送機工業(株)	9月22日	熱処理洗浄装置緊急対応訓練	8名
	2月25日	熱処理洗浄装置緊急対応訓練	8名
富士機械(株)	4月2日	環境基礎教育	6名
	3月16日	火災緊急対応訓練	65名
(株)イチタン	6月27日	騒音予防教育	38名
	12月24日	焼入炉火災緊急対応訓練	75名
桐生工業(株)	7月11日	ISO環境コンサルタント指導	7名
	11月20日	防災緊急対応訓練	110名
(株)スバルロジスティクス	随時	中入社員向け廃棄物分別教育	28名

\*1 スバル地域交流会:富士重工業とその取引先54社からなる組織で、太田市と周辺住民との相互交流、ならびに地域発展を図り「住みよい街」づくりに貢献することを目的として、さまざまな地域貢献活動を行っています。

活動内容はホームページでもご覧いただけます。

<http://www.chiiki-kouryukai.com/index.html>

■ 会社概要 (2009年3月末現在)

会社名	株式会社イチタン	株式会社スバルロジスティクス
所在地	群馬県太田市新道町74	群馬県太田市朝日町558-1
従業員数	200人	142人
主な事業内容	自動車・産業機械用鍛造品の製造、販売	自動車およびその部品の梱包、出荷、陸送業、倉庫業、整備業、保険代理店業

## 国内関係会社の主な実績

スバルは、国内の関係会社のなかで環境負荷が多い製造関係および輸送関係の5社による「国内関連企業部会」を組織しています。この部会は、年2回定期的に開催して企業間の活動事例の共有化、水平展開を図り、効率的で合理的な環境活動を推進しています。

### 主な部会活動実績

2008年度は、5月9日と10月31日に部会を開催しました。この部会では、廃棄物の削減・地球温暖化防止・省エネの目標が達成できたことを確認しました。

■ 5月開催の通算第16回部会の主な報告・討議内容

- ・各社の2007年度環境保全活動実績、2008年度計画および省エネ活動マスタープランについて
- ・部会全体で売上高が1%向上したものの、廃棄物削減目標を達成した。
- ・全企業ゼロエミッション・レベル1<sup>※2</sup>の維持、ゼロエミッション・レベル2<sup>※3</sup>への挑戦を推進していくことを確認した。
- ・省エネ・CO<sub>2</sub>削減やチームマイナス6%活動の推進について、など

■ 10月開催の通算第17回部会の主な報告・討議内容

- ・各社2008年度上期の実績および年度の計画について
- ・エネルギー改善の推進によるCO<sub>2</sub>排出量抑制の目標達成を目指す、など



### 主な環境活動実績

■ 環境マネジメントシステム構築

国内関連企業部会5社はすでにISO14001環境マネジメントシステムの認証を取得し、教育、訓練、特定施設の法令順守活動、内部監査など、汚染の未然防止と環境負荷の低減に向けた取り組みを進めています。

(株)スバルロジスティクスは、2008年度のISO14001認証継続はしましたが、方針転換により、12月14日付けで認証を返還しました。今後は、自主的なEMS活動を推進していきます。

■ 地球温暖化防止活動

2008年度のCO<sub>2</sub>排出量は5社合計で21,057 ton-CO<sub>2</sub>となり、前年度(24,198 ton-CO<sub>2</sub>)と比べ13%削減しました。

(株)スバルロジスティクスでは完成車輸送での、最適ルートの設定・モーダルシフトの推進・積載率向上などの効率化を進めることで環境負荷低減に貢献しています。

また、同業他社と完成車の共同輸送の取り組みを進め、2008年度の共同輸送取扱量(他社への委託台数と他社からの受託台数の合計)は、36,578台となりました。燃費データを集約することでより精度の高いエネルギー消費量(含むCO<sub>2</sub>排出量)の把握を行い、その結果、前年比約3%の燃費向上を達成し、年間1%以上のエネルギー消費量の低減を継続的に行っています。

## Topics

### (株)スバルロジスティクスとスバル輸送協力会 および関係会社による 「交通遺児助け合い募金」寄付について

2008年12月15日群馬県 太田市役所にて、賛同いただき、集めた募金を太田市の清水市長に手渡しました。これはスバルロジスティクスが中心となって、毎年実施しており、2008年は537,926円を寄付しました。



清水市長(中央)に集めた募金を代表して手渡す  
(株)スバルロジスティクス岡崎社長(右から3人目)

※2 レベル1  
直接又は間接埋立量が、廃棄物発生量(発生物総量から金属くずなどを省いた量)の1%以下のこと。  
※3 レベル2  
直接又は間接埋立量が、廃棄物発生量(発生物総量から金属くずなどを省いた量)の0.1%以下のこと。

■ 廃棄物削減活動

2008年度は売上高が20%減少した影響により、原単位が未達となってしまいましたが、全体では「ゼロエミッション・レベル2」をほぼ達成しました。2009年度は売上高変動の影響を抑制し得よう原単位管理の徹底に努め、「ゼロエミッション・レベル2」を定着させていきます。(2008年度埋立量実績7.8トン、前年度比較6.7トン削減)

環境関連法規制違反(自主基準値超過)、行政指導など

■ 環境関連法規制違反・自主基準値の超過について

● 騒音関係

(株)イチタンでは、2008年10月の夜間騒音自主規制値を超過したため、1月にバリ箱用防音室を設置するなど自主対策をしました。

その後48.2dBから45.3dBへ下がり、結果は良好となりました。なお、本件に関して公式な騒音苦情などは受けていません。



(株)イチタンのバリ落下音対策を施したバリ箱用防音室

● 水質関係

測定結果については、5社とも環境法規制違反・自主基準値の超過はありませんでした。

● 大気関係

測定結果については、5社とも環境法規制違反・自主基準値の超過はありませんでした。

■ 行政指導・勧告などについて

2008年度は、5社とも行政からの指導や勧告はありませんでした。

■ PCB含有機器などの保管状況について

輸送機工業(株)、(株)イチタン、桐生工業(株)の各社で、管理台帳とともに適正に保管しています。

環境に関する苦情・事故など

環境に関する公式な苦情・事故などについては、5社とも発生していません。

環境監査結果

■ ISO14001外部審査結果

各企業の審査結果は下表のとおりです。軽微な不適合については直ちに修正措置を行ったことによりISO14001の認証継続が確認されています。

企業名	実施日	軽微な不適合	観察事項	良かった点
輸送機工業(株)	2008年6月16~19日	0	4	0
富士機械(株)	2008年8月26~29日	2	33	2
(株)イチタン	2008年3月24~25日	1	4	0
桐生工業(株)	2008年8月19~20日	0	20	0
(株)スバルロジスティクス	2008年12月14日付けでISO14001認証登録を返還し、自主的なEMS活動を推進しています。			

\* 輸送機工業(株)については、富士重工業宇都宮製作所の認証範囲に加わりましたので、その審査時に受けた観察事項のうち輸送機工業にかかわるものをあげています。

環境データ

■ エネルギー使用量

	輸送機工業	富士機械	イチタン	桐生工業	スバルロジスティクス	5社合計	2001年度を100とした場合の指数
エネルギー使用量(原油換算kℓ)	568	4,485	6,239	224	568	12,084	79.6
CO <sub>2</sub> 排出量(ton-CO <sub>2</sub> )	897	9,538	9,977	377	269	21,058	76.5

■ 廃棄物発生総量

	輸送機工業	富士機械	イチタン	桐生工業	スバルロジスティクス	5社合計	2001年度を100とした場合の指数
廃棄物発生総量(ton)	85	1,571	4,735	281	273	6,945	62.5
直接埋立量(ton)	0.02	5.1	0.48	0.14	2.1	7.8	4.8



## ■ 会社概要 (2009年3月末現在)

会社名	SIA※1	SOA※2	SCI※3
所在地	インディアナ州ラファイエット	ニュージャージー州チェリーヒル	オンタリオ州ミシサーガ
従業員数	2,749人	761人	127人
主な事業内容	米国におけるスバル車の製造、トヨタ車の受託生産	米国におけるスバル車および部品の販売、整備	カナダにおけるスバル車および部品の販売、整備

## 地域社会とのかかわり

## SIAの社会貢献

## ■ 環境にやさしいSIA

SIAの取り組みの実績は各メディアで紹介されています。USA TODAYという発行部数世界第2位の新聞にも、2008年2月19日の紙面で「廃棄物ゼロ、環境先進企業のスバル工場」というタイトルで記事が掲載されました。



SIAの取り組みが掲載されたUSA TODAYの記事

## ■ 「Detrash the Wabash」活動

SIA近くを流れるWabash川の洪水による被害を受けた地域周辺を従業員で清掃しました。



Detrash the Wabash活動  
洪水に遭ったWabash川の周辺を清掃する従業員



## SOAの社会貢献

## ■ 「Cruisin' Not Boozin'」(飲んだら乗るな)プログラム

SOAは若者の飲酒運転などによる事故を減らすため、Bryn Mawr Rehab病院で安全運転指導を実施しています。飲酒などが原因で交通事故に遭った人と若者が、交流・対話するプログラムで、若者が交通事故の恐ろしさを目のあたりにして実感する貴重な機会です。このプログラムは今年で20年目の開催となり、これまでにペンシルベニア州、ニュージャージー州、デラウェア州の360,000人の学生を対象に実施しました。

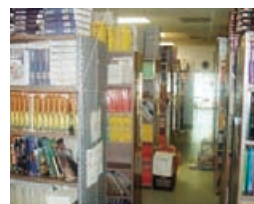


飲んだら乗るなプログラム

## ■ 本のリサイクルプログラムを支援

「SCARCE ブック レスキュー」という本のリサイクルプログラムをボランティアで支援しています。

およそ25,000冊の本がリサイクルされ、子供たちや、学校、図書館、病院などに寄贈されています。



「SCARCE ブックレスキュー」活動で集ったリサイクル本

## ■ Alive at 25 プログラム

16～24歳の若年ドライバーによる違反や交通事故を減らすため、ニュージャージー州の安全委員会で実施しています。このプログラムでは、運転経験の浅さや注意散漫が、運転中に危険を引き起こす原因となり得ることを理解し、若者が自身の行動に責任を持って交通事故を起こさない運転をするよう指導しています。

## SCIの社会貢献

## ■ スバル・カート・チャンピオンシップ・シリーズ

2008年5月18日に、ミシサーガの本社でスバル・カート・チャンピオンシップ・シリーズを立ち上げました。

このチャンピオンシップは、モータースポーツに興味を持つ8～16歳の若者にモータースポーツ界への入り口を提供するために立ち上げられました。また、イベントを通して家族の交流を促し、子どもたちに遊びや楽しみを提供することも目的にしています。



SCI本社にて展示車に試乗する参加児童

※1 SIA  
Subaru of Indiana Automotive, Inc.  
※2 SOA  
Subaru of America, Inc.  
※3 SCI  
Subaru Canada, Inc.

■ 会社概要(2009年3月末現在)

会社名	SRD*1	RMI*2
所在地	ミシガン州アンナーバー	ウィスコンシン州ハドソン
従業員数	38人	22人
主な事業内容	北米市場におけるスバル車の研究開発	米国における汎用・四輪バギー・ゴルフカート用エンジンの製造、販売

環境保全の取り組み

主な委員会活動実績

スバルは、海外の関係会社の中で特に環境負荷が高い北アメリカの製造関係および販売関係の5社により、「北米環境委員会(NAEC)」を組織しています。この委員会は、年2回定期的に開催し、企業間の活動事例の共有化、水平展開を図り、効率的で合理的な環境活動を推進しています。また、新たに2009年からは、「北米CSR委員会(NACC)」も発足させ、CSRについても、スバルのグローバルな情報共有および活動推進を図っています。

2008年は、2月19日と9月16日に北米環境委員会を開催しました。この委員会には日本からもCSR・環境委員委員長・事務局が参加し、北米環境委員会各社の活動報告とともに、日本のCSR・環境委員会の活動報告も行い、スバルのグローバルな情報共有を図っています。

2009年には、2月19日に北米環境委員会を開催し、ここでは2008年の実績と2009年の目標の確認ならびに、今後の活動体制についての討議がなされました。

なお、2008年については、廃棄物・埋め立て量・リサイクル率・エネルギー・CO<sub>2</sub>のすべての項目について目標を達成しています。また、2月24日には第一回CSR委員会を開催し、各社の活動事例に対し討議が行われました。

主な環境活動実績

■ 環境マネジメントシステム構築

北米環境委員会の5社はすべてISO14001環境マネジメントシステムの認証を取得し、教育、訓練、特定施設の法令順守活動、内部監査など、汚染の未然防止と環境負荷の低減に向けた取り組みを進めています。

特にSIAでは1998年11月に認証取得しており、これは日本国内のスバル生産拠点の群馬製作所よりも4ヶ月早い取得でした。

さらに2006年12月には、SIA・SOA・RMI 3社でさらに進んだ取り組みとして統合認証を取得しています。

■ 環境負荷(5社合計のCO<sub>2</sub>排出量と廃棄物埋立量)

CO<sub>2</sub>排出量は、こまめな省エネ活動により、一台あたり原単位は2007年の0.64トン/台から2008年は0.54トン/台へと改善しました。ただし総排出量は、SIAのトヨタ車受託生産を含めた生産増加分を吸収しきれずに、111千ton-CO<sub>2</sub>となり、2007年と比較して約9千ton-CO<sub>2</sub>、約8%増加しました。

地球温暖化防止のため、さまざまな対策を推し進め総量の削減に努めていきます。2008年度の廃棄物の埋立量については544トンとなり、2007年度と比較し約3%低減できました。なお、SIAについては2005年にゼロエミッションを達成し、現在も継続しています。

Topics

SOAでは、さまざまな環境への取り組みが認められ、雑誌「ワーキング・マザー」にて、2008年の子供が選ぶグリーンカンパニーTOP20にランクインしました。ランクイン企業は、革新的な思考と財源で環境保全に積極的に取り組み、次世代の子供達にとってクリーンな世界を築く企業です。

スバルは、「リサイクル先進企業」として選出され、特にPZEV\*3のクリーンなエンジン、クリーン・ディーゼルの開発、電気自動車、廃棄物の削減、リサイクル活動などが評価されました。また、アメリカで最も働きやすい職場に贈られるBest Adoption Friendly Workplace賞で2位に選ばれました。

地球温暖化防止への取り組み

SIAでは、積極的な省エネ活動を行うことにより、CO<sub>2</sub>排出量を25,435トン削減しました。そうした努力に対して、2008年には、米国環境保護庁(EPA)からWaste Wise賞を一昨年から引き続き3年連続で受賞しました。(2008年度は気候変化部門ゴールド賞、2006年度は新人賞、2007年度はリサイクル部門)



2008年Waste Wise賞にて気候変化部門ゴールド賞受賞の際の盾

\*1 SRD  
Subaru Research & Development, Inc.

\*2 RMI  
Robin Manufacturing U.S.A., Inc.

\*3 PZEV  
Partial-zero-emission vehicle  
カリフォルニア州の厳しい排出基準をクリアした  
クリーン排出ガス車。

SCIでは、CO<sub>2</sub>排出量を削減するため、DDS(直接配送サービス)プログラムを実施しています。倉庫から直接ディーラーへ配送するため、配送業者を介するより移動距離が短く、また、夜間に配送することで渋滞を避けられ、CO<sub>2</sub>排出量を削減できます。2006年よりトロント地域を中心に開始したこのプログラムは、2009年にはモントリオール地域まで範囲を拡張させる予定です。



DDSで使用しているトラックのひとつ

RMIでは、出入口のドア付近を断熱材で覆い、冷暖房にかかるコストとCO<sub>2</sub>排出量を削減する取り組みを行っています。



断熱材で覆われた出入口

SOAでは、「継続的な改善」活動により環境保全に積極的に取り組んでいます。2008年は、設備改良や省エネ対策により、エネルギー使用量の21.9%を削減し(前年比)、経費の削減やCO<sub>2</sub>排出量の削減も達成しました。

今後も、スバルはCO<sub>2</sub>排出量削減に向けて積極的に取り組んでいきます。

### 廃棄物削減への取り組み

各社は、輸送時の梱包材にリターナブルパレットの使用を進めています。これにより、廃棄物そのものを減ら

す取り組みを続けています。例えばRMIでは、現在93%リターナブルパレットを使用していますが、2009年度には、100%リターナブルパレット化を進める計画です。

また、RMI独自の活動として、e-RECYCLING活動を実施し、老朽した電子基板すべてをリサイクルして活用しています。



RMIのリターナブルパレット

SOAでは、配送段階において折り畳み式のリターナブルパレットを使用しています。この改善により、年間でダンボール40,000箱の削減になります。



SOAの折り畳み式リターナブル配送箱

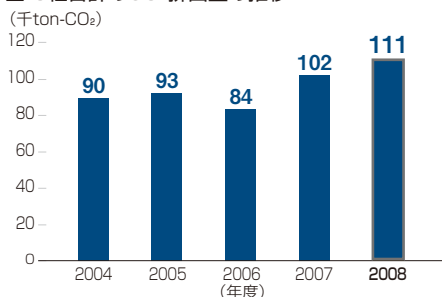
SRDでは、ハードコピーからオンラインでの注文システムに替え、郵便も電子データで保管することでペーパーレス化を図り廃棄物削減に取り組んでいます。

SIAでは、すでにゼロエミッションを達成していますが、さらに廃棄物の発生そのものを減らす取り組みを続けています。たとえば、工場で使用するオイルを遠心分離機を使って年間約6,000ガロン再利用したり、エンジン工場リターンプロジェクトにより、梱包材を年間2,122トン再利用するなど、積極的にリサイクル、廃棄物の削減を進めています。

SCIの3R活動(Reduce, Reuse, Recycle)は、カナダの全国紙“NATIONAL POST”や“Canada.com”をはじめとしてさまざまなメディアに取り上げられました。今後もより高い目標を設定し取り組んでいきます。

## 環境データ

### ■ 5社合計のCO<sub>2</sub>排出量の推移



### ■ 5社合計の廃棄物埋立量の推移

